

発寒ひかり  
保育園だより

2020年  
9月号

巻頭言

先日、りす（2歳児）組のクラス活動で、数人がグラウ  
ンドの地球儀ジムに挑戦していました。

「せんせい、みてー」と、どの子も自分が登れたことを  
嬉しそうに教えてくれます。そのなかで慎重派のSちゃん  
は、地球儀ジムの下の方で、「せんせい、どうやるの？」  
と私にやり方を聞いてきました。「棒と棒の間から入って、  
足をかけて：」と動作を交えながら教えると、真剣な表情  
で挑戦し始めました。子どもの視線の高さ程を一人で登り、  
「できたよー。つぎはどうするの？」と嬉しそうにしてい  
ました。意欲的な姿に感心しながら更にやり方を教えると、  
「そしたらおちちやうよ」と意外な返事が返ってきました。  
失敗を恐れているのではなく、ここまでではできそうだけど、  
これ以上のことは危ない、とSちゃんのなかで判断できる  
ようになっていて、またそれを相手に自分の言葉でし  
っかりと伝えられることに驚きと成長を感じました。

当園の保育課程の「2歳児」欄には、「様々な関りや遊  
びを通して、安全なことや危険なことに気付く」とありま  
す。これらを実現するためには、日々、様々な年齢の子と  
遊んだり、実際に体験をして学んでいくことが重要になっ  
てきます。2歳児は自我が芽生え、イヤイヤ期（当園では  
『独立宣言期』）といわれる年齢ですが、なんでも試した  
り、好奇心に溢れている大切な時期でもあります。

子どもたちが生き生きと積極的に活動できるよう、自分  
で考え行動する気持ちに寄り添い、安心して自我を表現で  
きる雰囲気をつくっていききたいと思います。

フリー保育士・りす組担任 鈴木めぐみ